

【開催要項】

吉原英雄を囲む作家たち

「吉原英雄展 画家のドラマ」の開催にあわせ、吉原英雄と交流のあった作家たちの特集展示を行います。

作家としての歩みを進める中で、吉原は多くの芸術家から影響を受け、また多くの後進を育てました。その交流は、関西の現代美術の一つの流れを形作るものであったと言えます。

吉原が版画を作り始めたのは、1955年、24歳の時に加わったデモクラート美術家協会において、瑛九や泉茂の影響を受けたからでした。彼らは未だ技術的に未開拓であったリトグラフ（石版画）を自分たちで研究し始めます。そしてデモクラート美術家協会のメンバーらは、一般には広く知られていなかったこの技法を、1956年の「リトグラフィ9人展」において、初めて大阪で発表します。しかし版画という新しい分野への社会の理解は、まだ十分とは言えない時代でした。

そうした中、版画は現代の芸術の表現手段であり得るのかという問題意識を持っていた吉原は、1963年から勤めた京都市立美術大学（現在の京都市立芸術大学）で同僚となった堀内正和や八木一夫、鈴木治ら、立体造形の作家から大きな影響を受けます。分野を異にする作家と接したからこそ、版画という自らの領域への意識を研ぎ澄ましていったとも言えるでしょう。また50年代後半に個展を通じて知り合った森口宏一とは、生涯、制作の問題を越えた交遊を続けていました。そして吉原の元からは、木村秀樹や山本容子ら、現在も活躍を続ける多くの版画家が巣立っています。

この展示では吉原英雄と交流のあった作家たちの作品およそ50点を紹介します。

【会場】 和歌山県立近代美術館 1階展示室（「コレクション展2011/12-冬」と同じ）

【会期】 2011年12月20日（火）～2012年2月19日（日）

【開館時間】 9時30分～17時（入場は16時30分まで）

【休館日】 月曜日（1月9日は開館、翌10日休館）、年末年始（12月29日～1月3日）

【観覧料】 一般340（270）円、大学生230（180）円（ ）内は20名以上の団体料金

* 高校生以下、65歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生(外国人就学生も含む)は無料

* 「コレクション展 2011/12-冬」、「生誕130年 日高昌克」と共通

【同時開催の展覧会】

吉原英雄展 画家のドラマ [11月19日（土）]～2012年1月15日（日）

ホックニーのグリム童話 2012年2月11日（土・祝）～[3月25日（日）]

【お問い合わせ先】

和歌山県立近代美術館 担当：青木加苗、奥村泰彦

〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14 tel. 073-436-8690 fax. 073-436-1337

<http://www.momaw.jp/>